

ベートーヴェン： 交響曲第9番二短調 Op125 第3・第4楽章

III. Adagio molto e cantabile 17'03

IV. Presto Allegro assai 23'59

バーバラ・ボニー (S) ブルギット・レンメルト (A)

クルト・ストレイト (T) トーマス・ハンプソン (Br)

バーミンガム市交響楽団合唱団

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 サイモン・ラットル

Aufnahme 10. 2002 ウィーン楽友協会大ホール EMI

1822年、ベートーヴェンは「荘厳ミサ曲」をほぼ完成していて、本格的に「二短調交響曲」の作曲に取り掛かります。23年春には第1楽章、夏から秋にかけて第3楽章が書かれています。終楽章にシラーの詩による合唱を取り入れたのが、ほぼ23年秋と考えられています。第9全体の完成が24年2月と言われているので最後の半年で現在のスタイルになったと考えられます。初演は5月7日に「荘厳ミサ曲」とともにウィーンで行われました。形ばかりの指揮者として指揮台にいたベートーヴェンは聴衆の喝采が聞こえず、アルトの独唱者がそっと後ろを向かせたという話は有名です。

ここでは第3楽章と第4楽章を聞きます。第3楽章は天国的な美しさを持つ長大な緩徐楽章。最後に金管楽器のファンファーレが2回鳴り響き、終末を予感させて終わります。第4楽章は轟音とともに始まり、この曲のこれまでの3つの楽章が回想されたのち、「歓喜の歌」のテーマが現れます。バス独唱の後、合唱が「歓喜に寄す」を歌います。この後スタイルを変化させつつ終結部に向かっていきます。

シラー (1759—1805)

ドイツ古典主義文学を10歳年上のゲーテとともに代表する作家。主として戯曲に不朽の名作を多く残しています。詩は極めて理想主義的理念、思想性を持ち、反面やや自然な抒情性が乏しいといわれています。作品は躍動的な名ドラマをいくつか残しています。スイスの独立劇「ヴィルヘルム・テル」は文学史に残る作品です。1805年ワイマルで46歳で亡くなりました。

(金古 尚)

## 脇田会長を偲ぶ会

塚田会長代行挨拶

シベリウス：	4つの伝説曲から「トゥネラの白鳥」	8'24
渡辺暁雄	日本フィルハーモニー交響楽団	
	08.09.1981 昭和女子大学人見記念講堂	DENON

フィンランドには口伝によって伝えられてきた英雄物語の叙事詩に「カレワラ」があります。50巻にまとめられた長編ですが、シベリウスはこの内容に深い関心を寄せました。この内容をオペラにしようと考えたようですが、それを諦め、それまでのスケッチを4つの交響詩に姿を変えていきます。4つの交響詩は作品22とされ、「トゥネラの白鳥」は第3曲として置かれます。暗い序奏に続いてイングリッシュ・ホルンが白鳥を象徴する旋律を吹きます。弦の旋律に受け継がれ、再び、イングリッシュ・ホルンの歌が出てきて曲を閉じます。

シベリウス：	交響曲第2番ニ長調 Op43 第4楽章	16'32
	ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団	ヘルベルト・フォン・カラヤン
	1980年 ベルリン・フィルハーモニー	EMI

シベリウスは1901年家族とイタリアに旅行するが、その時に着想した音楽を取り入れながら作曲したと言われています。第4楽章は冒頭の力強い第1主題と悲しい印象を持つ第2主題が対照されながら進みます。盛り上がっていき、明るく高らかな終結に入っていきます。

ブラームス：	交響曲第1番ハ短調 Op67 第4楽章	16'20
	ニューヨーク・フィルハーモニック	レナード・バーンスタイン
	1960年ニューヨーク マンハッタン・センター	CBS

シューマンは若きブラームスを批評の中で「将来の交響曲作曲家」として紹介しています。しかしブラームスはベートーヴェン以降の交響曲作曲を非常に慎重に進めたため、この完成にはかなりの時間を要し、彼が43歳の時に完成しました。指揮者のハンス・フォン・ビューローはこの作品を「第10番」と呼びました。これから聴く第4楽章はアルペンホルン風の旋律や弦楽合奏の歌うような旋律など多様な要素を持つ壮麗な音楽です。

(金古 尚)

